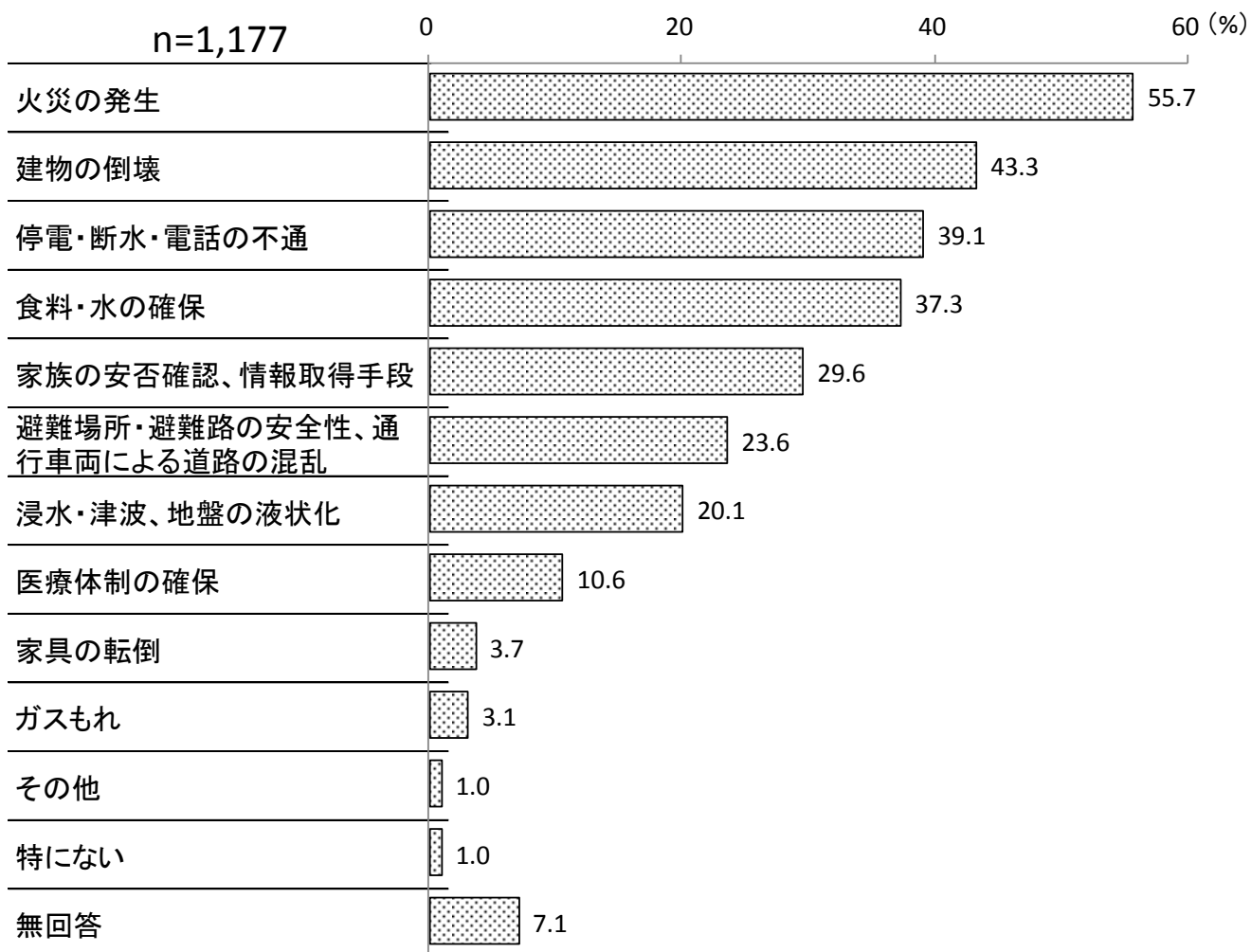


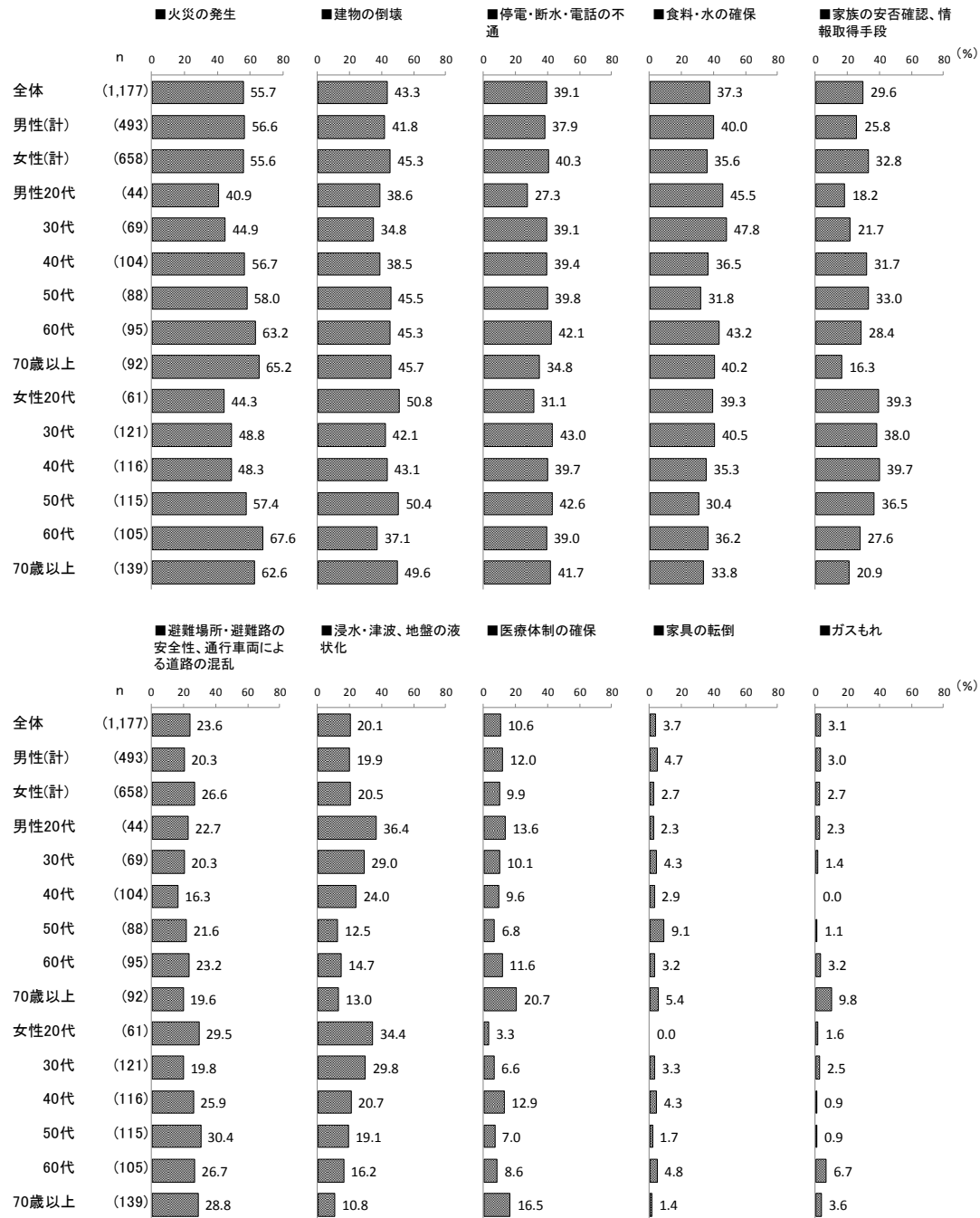
1.4 防災対策

問 22 今後、東京に大地震が発生した場合、あなたが特に不安だと思うものは何ですか。（〇は3つまで）



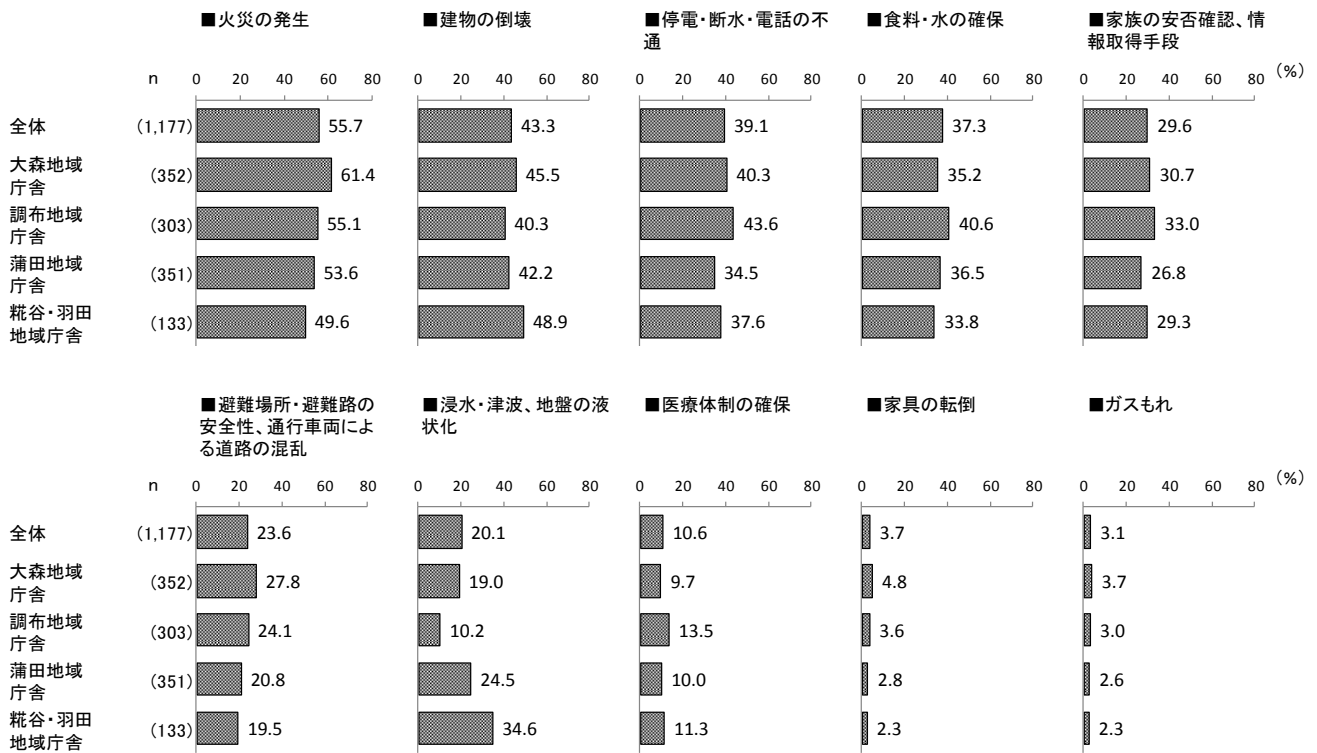
- ・今後、東京に大地震が発生した場合、特に不安だと思うものは、「火災の発生」が 55.7%、次いで「建物の倒壊」が 43.3%、「停電・断水・電話の不通」が 39.1%の順となっている。

【大地震発生時に不安だと思うもの×性／年代別（上位10項目）】



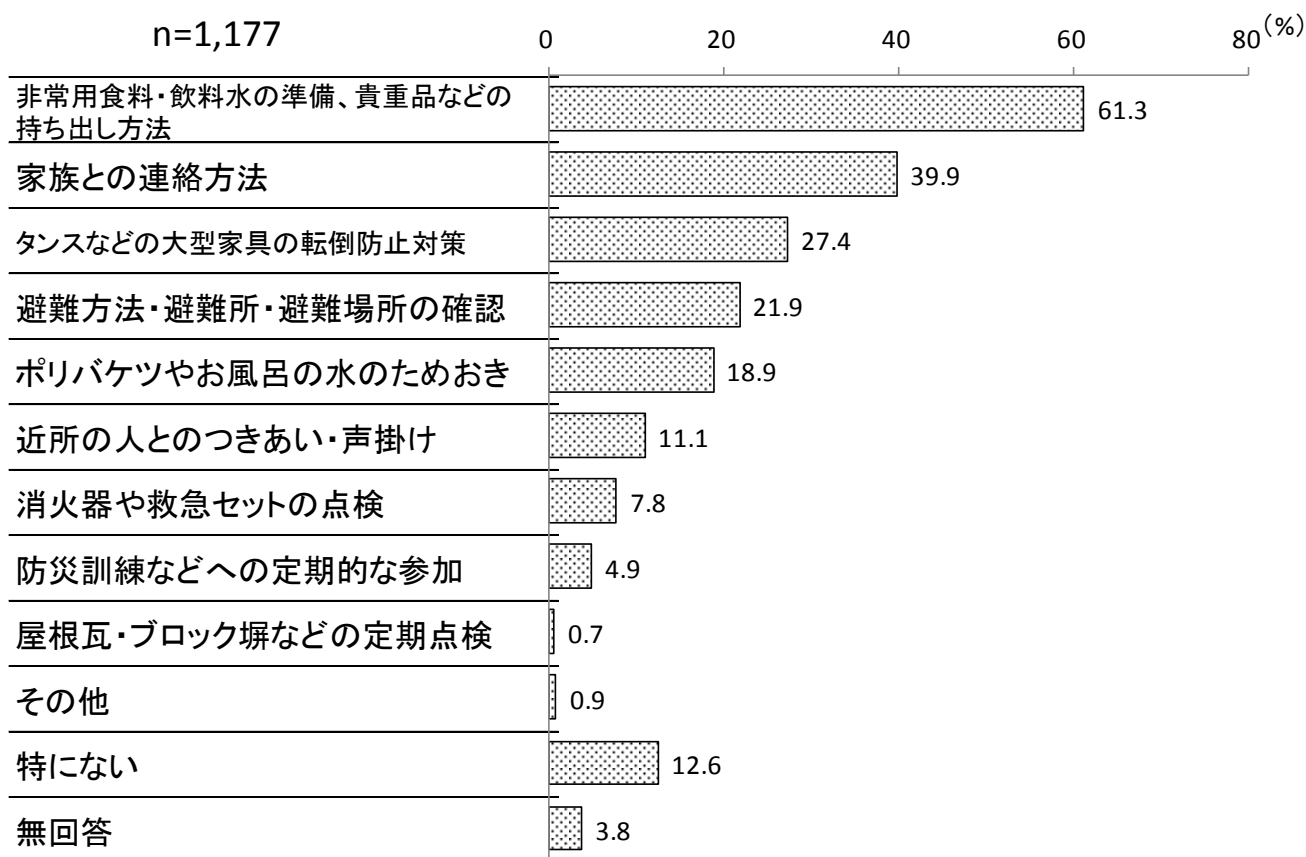
- ・ 上位10項目を性別にみると、「食料・水の確保」では男性（計）が40.0%と女性（計）35.6%に比べ4.4ポイント、「家族の安否確認、情報取得手段」では女性（計）が32.8%と男性（計）25.8%に比べ7.0ポイント、「避難場所・避難路の安全性、通行車両による道路の混乱」では女性（計）が26.6%と男性（計）20.3%に比べ6.3ポイント、「医療体制の確保」では男性（計）が12.0%と女性（計）9.9%に比べ2.1ポイント高くなっている。
- ・ 年代別にみると、男性30代では「食料・水の確保」が47.8%、20代では「浸水・津波、地盤の液状化」が36.4%、70歳以上では「医療体制の確保」が20.7%、同じく70歳以上で「ガスもれ」が9.8%と他の年代に比べ高い割合となっている。
- ・ 女性60代では「火災の発生」が67.6%、20代では「建物の倒壊」が50.8%、30代では「停電・断水・電話の不通」が43.0%、20～40代で「家族の安否確認、情報取得手段」が4割弱と他の年代に比べ割合が高くなっている。

【大地震発生時に不安だと思うもの×地域庁舎管内別（上位10項目）】



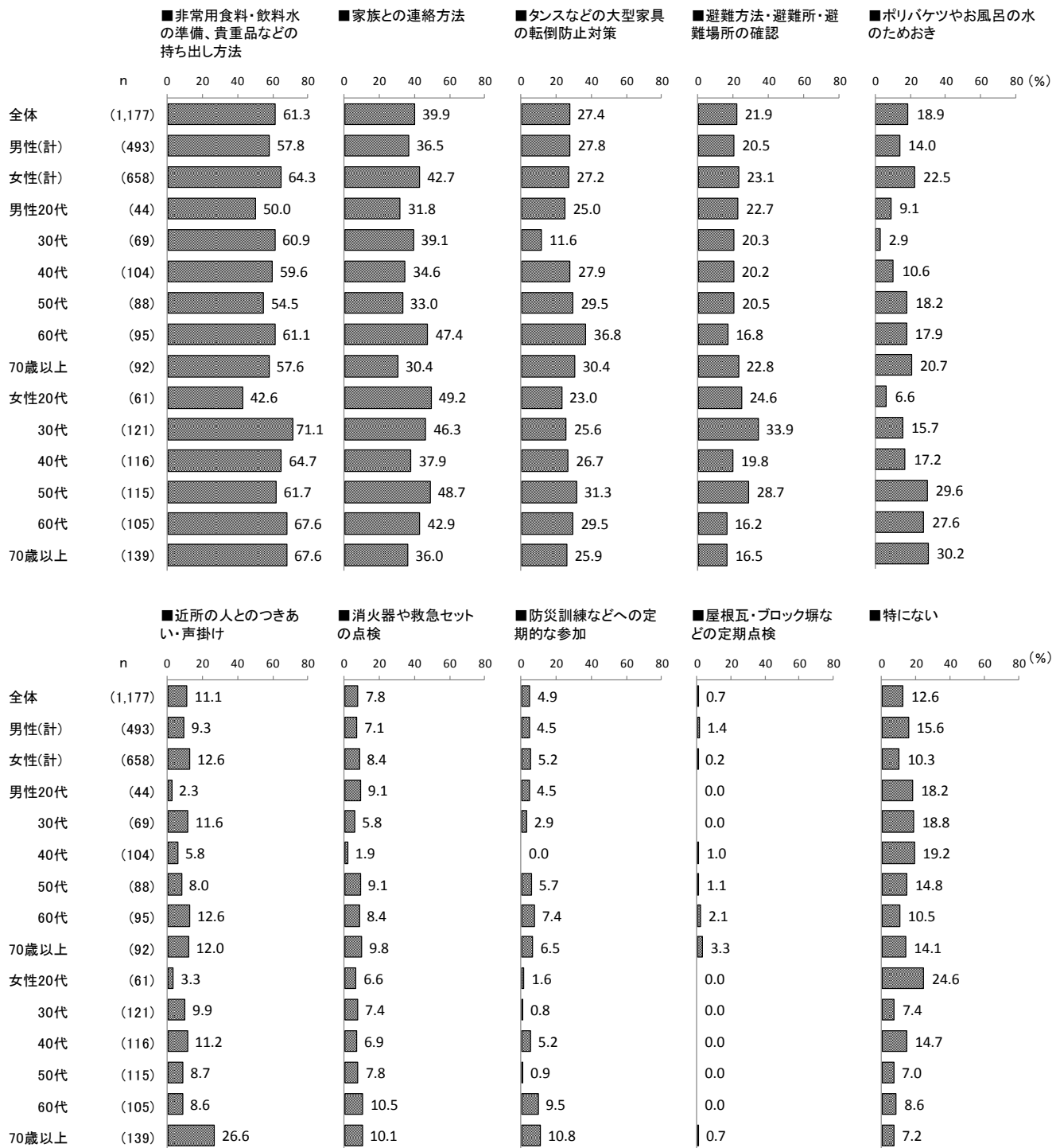
- ・ 上位10項目を地域庁舎管内別にみると、「火災の発生」が大森地域庁舎で61.4%と最も高くなっている。また、「浸水・津波、地盤の液状化」が糀谷・羽田地域庁舎で34.6%と他の地域と比べて高い割合となっている。

問 23 あなたの家庭で、大地震に備えて普段から特に心がけていることは何ですか。(〇は3つまで)



・大地震に備えて普段から特に心がけていることは、「非常用食料・飲料水の準備、貴重品などの持ち出し方法」が61.3%、次いで「家族との連絡方法」が39.9%、「タンスなどの大型家具の転倒防止対策」が27.4%の順となっている。

【震災対策の実施状況×性／年代別（上位10項目）】



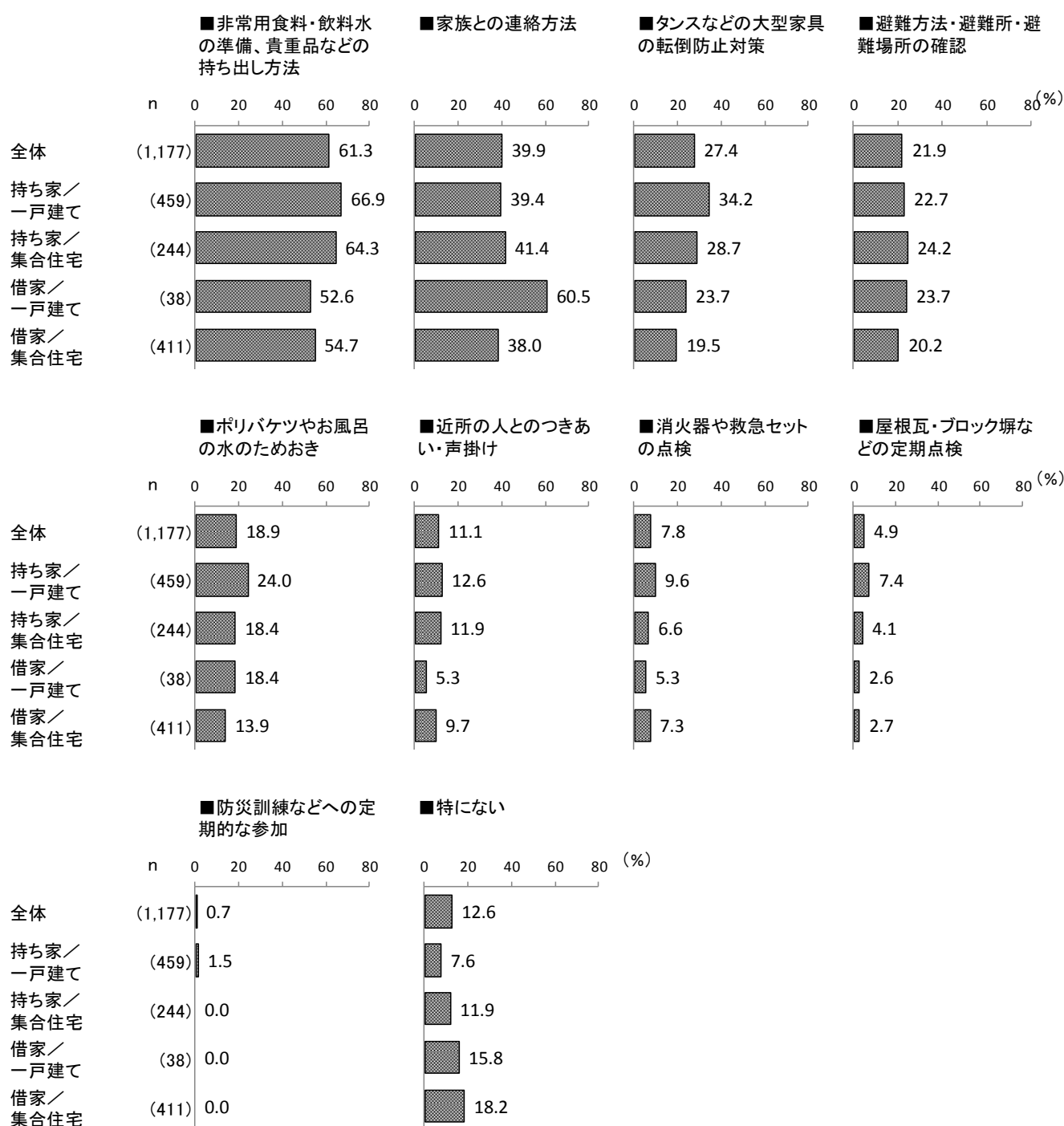
- ・上位 10 項目を、性別にみると、「非常用食料・飲料水の準備、貴重品などの持ち出し方法」では女性（計）が 64.3%と男性（計）57.8%に比べ 6.5 ポイント、「家族との連絡方法」では女性（計）が 42.7%と男性（計）36.5%に比べ 6.2 ポイント、「避難方法・避難所・避難場所の確認」では女性（計）が 23.1%と男性（計）20.5%に比べ 2.6 ポイント、「ポリバケツやお風呂の水のためおき」では女性（計）が 22.5%と男性（計）14.0%に比べ 8.5 ポイント、「近所の人とのつきあい・声掛け」では女性（計）が 12.6%と男性（計）9.3%に比べ 3.3 ポイント高くなっている。全体的に女性の方が男性に比べ震災対策を実施している割合が高くなっている。
- ・年代別にみると、男性 60 代では「タンスなどの大型家具の転倒防止対策」が 36.8%と他の年代に比べ高い割合となっている。
- ・女性 30 代では「非常用食料・飲料水の準備、貴重品などの持ち出し方法」が 71.1%、同じく 30 代で「避難方法・避難所・避難場所の確認」が 33.9%、70 歳以上では「近所の人とのつきあい・声掛け」が 26.6%と他の年代に比べ高い割合となっている。

その他の意見としては、

- ・ペットの安全確保を一番に考えた準備と行動。
- ・犬の避難を考えた準備
- ・のみ水の確保
- ・ヘルメットを用意している。
- ・排泄物用にペットボトルに水のためおき。
- ・まくら元に懐中電灯の用意
- ・食糧備蓄

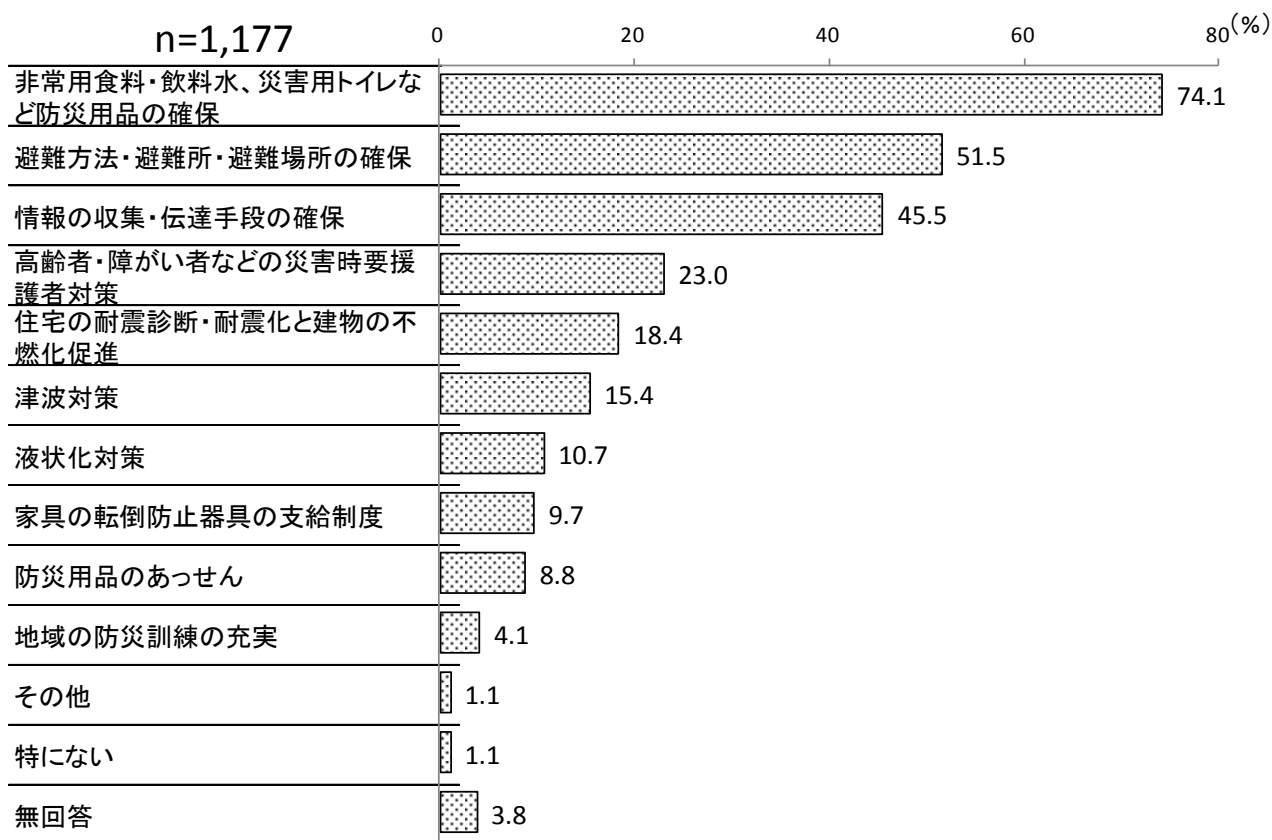
などがあげられており、「ペットと避難するための準備」、「食糧・飲み水の確保に対して準備している」という意見があがっている。

【震災対策の実施状況×住居形態別（上位10項目）】



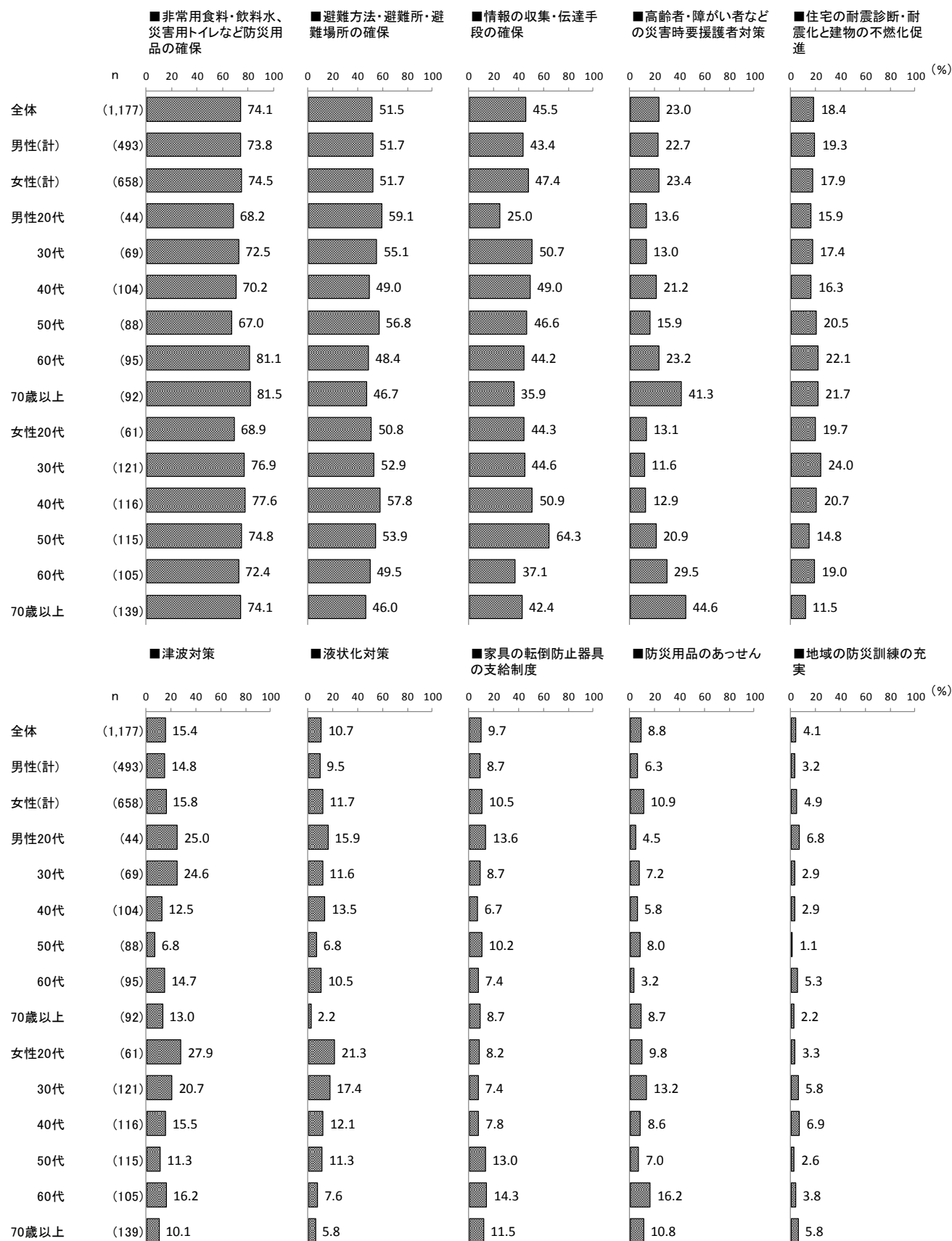
・上位10項目を住居形態別にみると、「家族との連絡方法」では借家／一戸建てが60.5%と他の居住形態に比べ割合が高くなっている。また、「非常用食料・飲料水の準備、貴重品などの持ち出し方法」では持ち家／一戸建て、持ち家／集合住宅で6割台半ばとなっており、特に持ち家／一戸建てでは66.9%と他の居住形態に比べ割合が高くなっている。

問 24 あなたが、大地震の際の防災対策として、大田区に特に力を入れてほしいことは何ですか。
 (〇は3つまで)



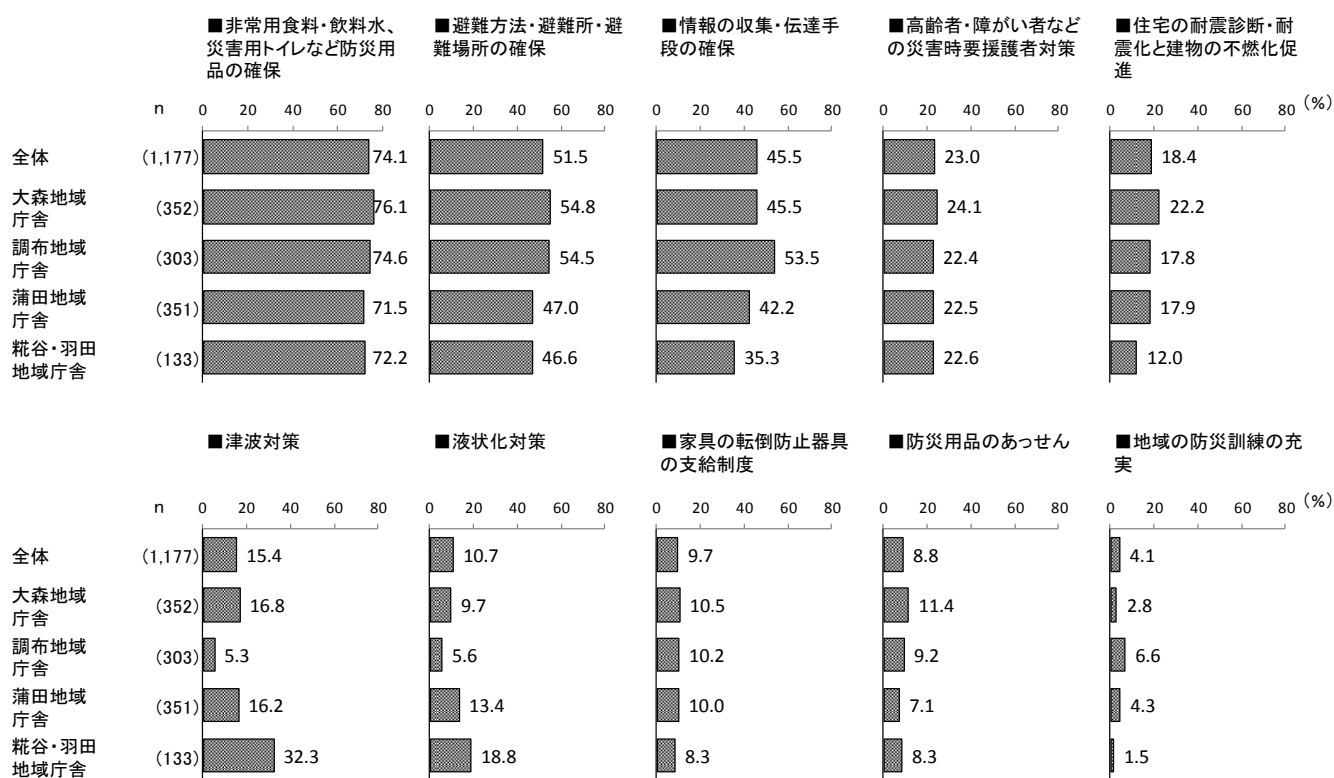
・全体では、「非常用食料・飲料水、災害用トイレなど防災用品の確保」が74.1%、次いで「避難方法・避難所・避難場所の確保」が51.5%、「情報の収集・伝達手段の確保」が45.5%の順となっている。

【力を入れてほしい防災対策×性／年代別（上位10項目）】



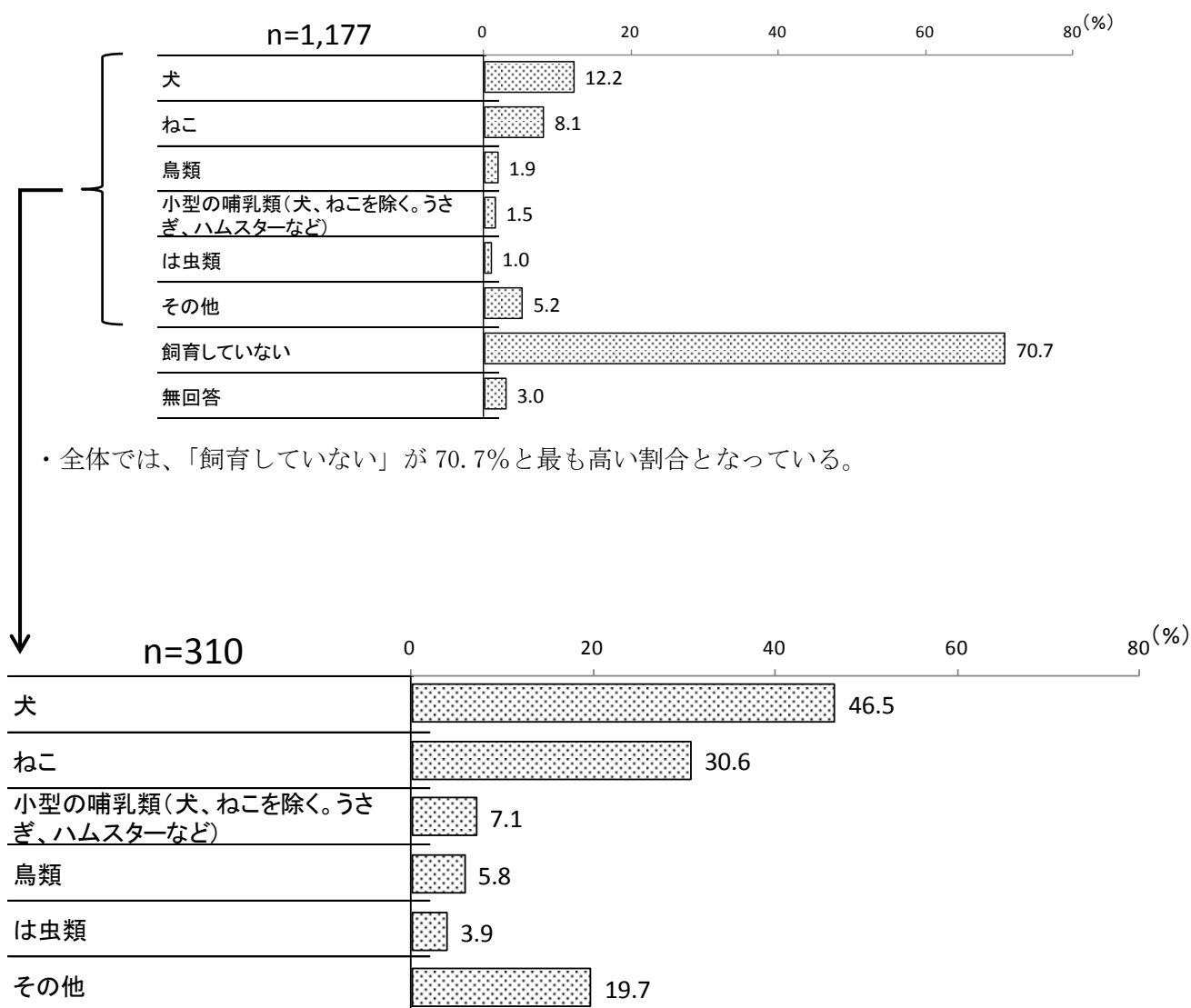
- ・上位 10 項目を性別にみると、「情報の収集・伝達手段の確保」では女性（計）が 47.4%と男性（計）43.4%に比べ 4.0 ポイント、「住宅の耐震診断・耐震化と建物の不燃化促進」では男性（計）が 19.3%と女性（計）17.9 に比べ 1.4 ポイント、「液状化対策」では女性（計）が 11.7%と男性（計）9.5%に比べ 2.2 ポイント、「家具の転倒防止器具の支給制度」では女性（計）が 10.5%と男性（計）8.7%に比べ 1.8 ポイント、「防災用品のあっせん」では女性（計）が 10.9%と男性（計）6.3%に比べ 4.6 ポイント高くなっている。
- ・年代別にみると、男性 70 歳以上では、「非常用食料・飲料水、災害用トイレなど防災用品の確保」が 81.5%、「高齢者・障がい者などの災害時要援護者対策」が 41.3%と他の年代に比べ高い割合となっている。
- ・女性 50 代では「情報の収集・伝達手段の確保」が 64.3%、70 歳以上で「高齢者・障がい者などの災害時要援護者対策」が 44.6%と他の年代に比べ割合が高くなっている。

【力を入れてほしい防災対策×地域庁舎管内別（上位10項目）】



- ・ 上位10項目を地域庁舎管内別にみると、「非常用食料・飲料水、災害用トイレなど防災用品の確保」が全ての地域庁舎で7割以上を占める。また、糎谷・羽田地域庁舎では「津波対策」が32.3%、「液状化対策」が18.8%、調布地域庁舎管内では「情報の収集・伝達手段の確保」が53.5%と、他の地域庁舎管内と比べて高い割合となっている。

問 25 あなたのお住まいでは、どのような動物を飼育していますか。同居の方のものも含めてください。
 (〇はいくつでも)

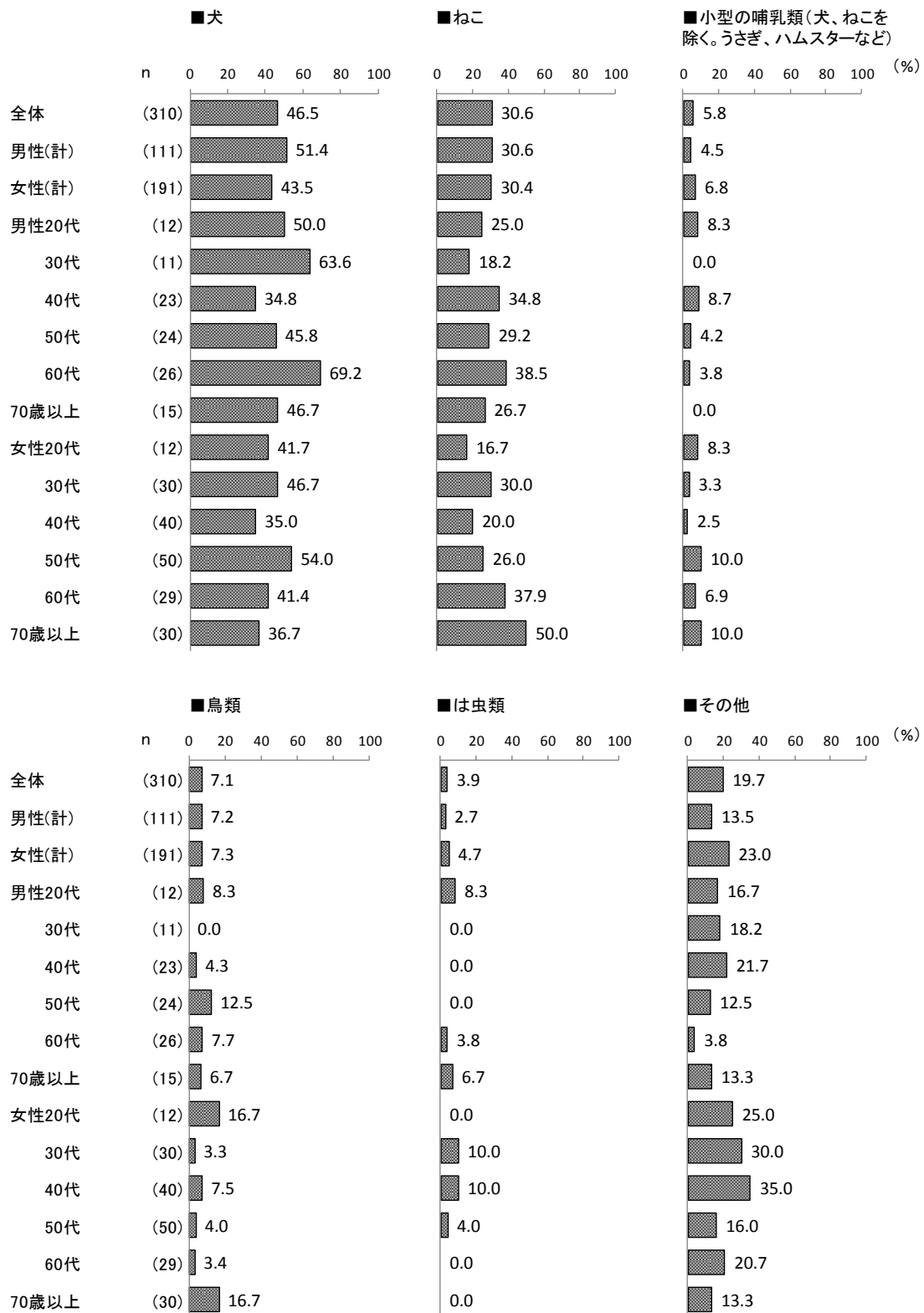


・全体では、「飼育していない」が70.7%と最も高い割合となっている。

※「飼育していない」と「無回答」を除く

・飼っている場合、最も多いのが「犬」が46.5%、「ねこ」が30.6%の順となっている。

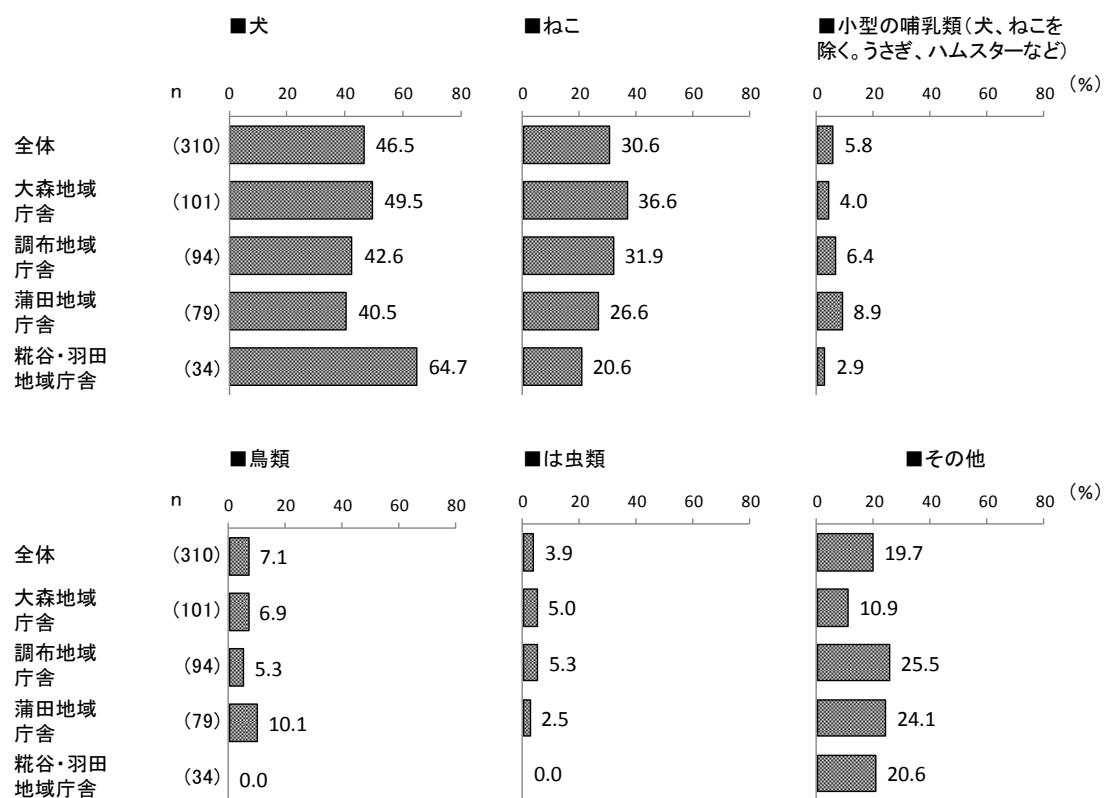
【飼育している動物×性／年代別】



※「飼育していない」と「無回答」を除く

- ・性別にみると、「犬」では男性（計）が51.4%と女性（計）43.5%に比べ7.9ポイント高くなっている。
- ・「犬」では男性60代で69.2%と他の年代に比べ割合が高くなっている。
- ・「ねこ」では女性70歳以上で50.0%と他の年代に比べ割合が高くなっている。

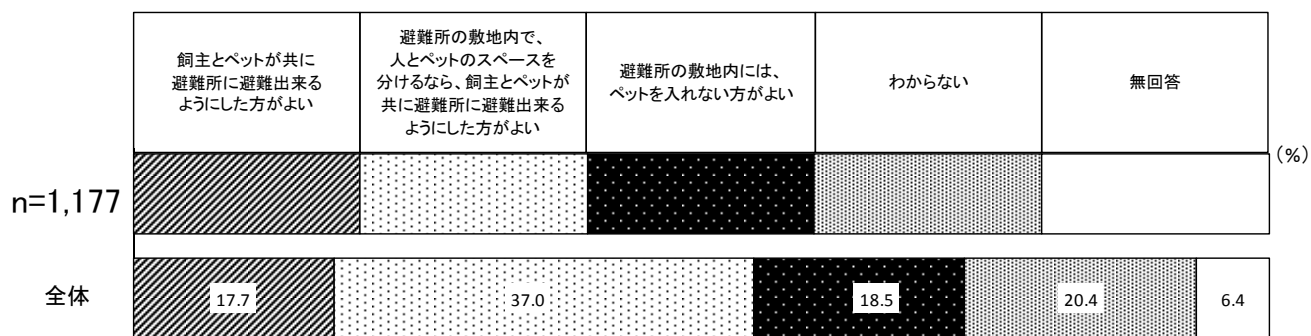
【飼育している動物×地域庁舎管内別】



※「飼育していない」と「無回答」を除く

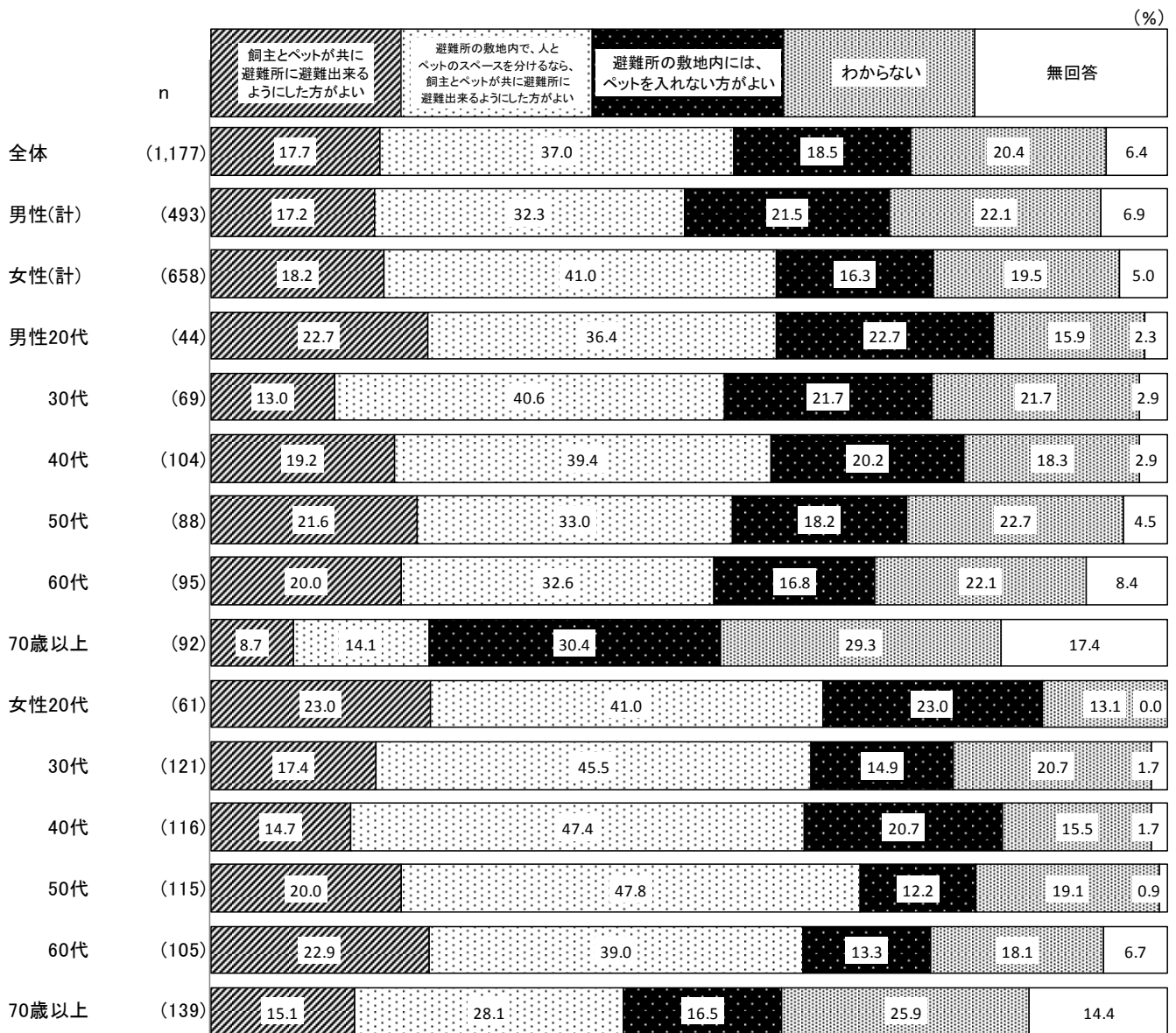
- ・地域庁舎管内別にみると、「犬」では糞谷・羽田地域庁舎で64.7%、「ねこ」では大森地域庁舎管内で36.6%、調布地域庁舎管内で31.9%、「小型の哺乳類」と「鳥類」では蒲田地域庁舎管内でそれぞれ8.9%、10.1%と他の地域庁舎管内に比べ高い割合となっている。

問 25-1 東日本大震災の被災地では、自宅に置いていったペットの餓死や、ペットと車の中で過ごしていた飼主がエコノミー症候群で死亡するなどの事例が報告されています。あなたは、ペットとの避難についてどう考えますか。(〇は1つ)



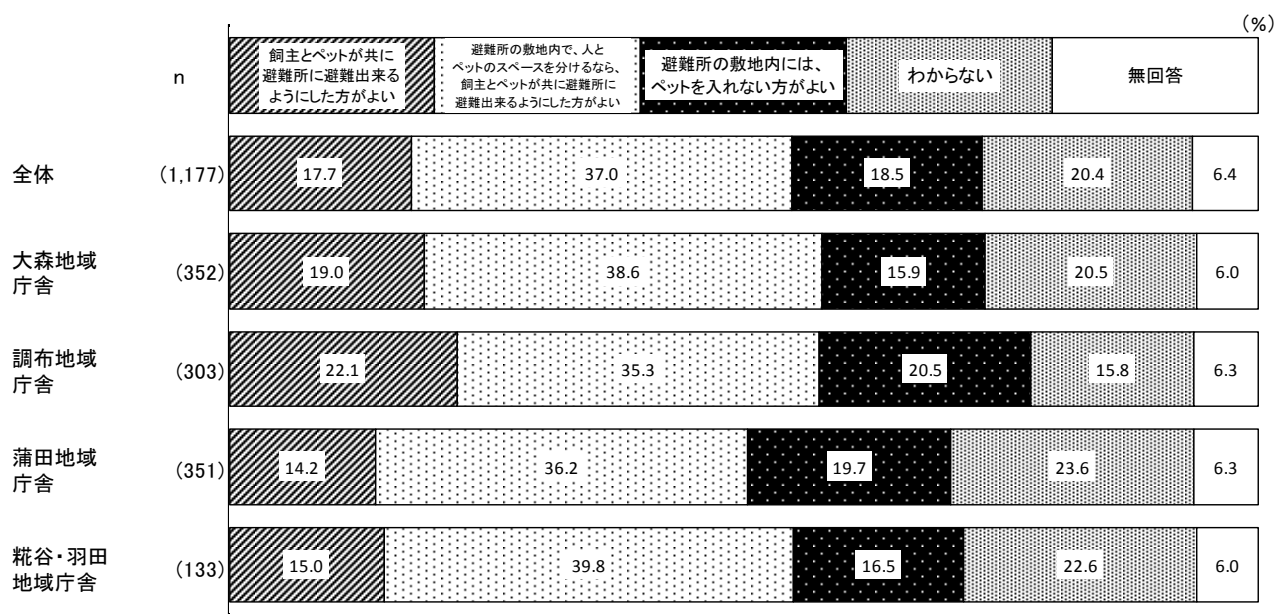
- ・全体では、「避難所の敷地内で、人とペットのスペースを分けるなら、飼主とペットが共に避難所に避難出来るようにした方がよい」が37.0%と最も割合が高くなっている。次いで、「避難所の敷地内には、ペットを入れない方がよい」(18.5%)、「飼主とペットが共に避難所に避難出来るようにした方がよい」(17.7%)の順となっている。

【ペットとの避難について×性／年代別】



- ・性別にみると、「避難所の敷地内で、人とペットのスペースを分けるなら、飼主とペットが共に避難所に避難出来るようにした方がよい」では女性（計）が41.0%と男性（計）32.3%に比べ、8.7ポイント高くなっている。一方、「避難所の敷地内には、ペットを入れない方がよい」では男性（計）が21.5%と女性（計）16.3%に比べ5.2ポイント高くなっている。
- ・年代別にみると、男性70歳以上では「避難所の敷地内には、ペットを入れない方がよい」が30.4%と他の年代に比べ割合が高くなっている。
- ・女性50代では「避難所の敷地内で、人とペットのスペースを分けるなら、飼主とペットが共に避難所に避難出来るようにした方がよい」が47.8%と他の年代に比べ割合が高くなっている。
- ・また、男女ともに20代で「飼主とペットが共に避難所に避難出来るようにした方がよい」がそれぞれ22.7%、23.0%と割合が高くなっている。

【ペットとの避難について×地域庁舎管内別】



- ・ 地域庁舎管内別にみると、大森地域庁舎管内、調布地域庁舎管内では「飼い主とペットが共に避難所に避難出来るようにした方がよい」が全体に比べ高い割合となっている。

